

ディスコグラフィー掲載

ディスコグラフィー 【2015No.30】 (HP 掲載)

分類：CD

作曲家：ウジェーヌ・イザイ

曲名：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ op.27

演奏：戸田弥生

発売： Octavia Record Inc.

No. : OVCL-00179

概要：



本 CD は戸田弥生とエル・パシヤのデュオリサイタルに行った際に、イザイは演奏曲目にはありませんでしたが買い求めてきたもので、戸田弥生の公式 HP のディスコグラフィーのページでも紹介されており、収録曲は以下のとおりです。

http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?page_id=21

<http://yuyoi-toda.com/recordings/>

ソナタ 第1番 ト短調

ソナタ 第2番 イ短調

ソナタ 第3番 ニ短調 「バラード」

ソナタ 第4番 ホ短調

ソナタ 第5番 ト短調

ソナタ 第6番 ホ短調

戸田弥生のイザイはストレートな表現で後述する他の演奏家とはちょっと違った印象です。このイザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタは千住真理子の演奏を聴いてきて CD も紹介しています。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/03/63bd057>

[32237eb81dd301612c05b8ec72.pdf](#)



また、イザイの無伴奏ソナタの生演奏はずっと以前にヒラリー・ハーンの演奏を聴いたことがあり、CD と BS 録画では南紫音の演奏を聴いています。

何と言っても千住真理子のイザイはストラディバリウス・デュランティの音が豊潤で深い音がします。南紫音の CD と BS 録画は、使用楽器は、サントリー芸術財団より貸与された 1727 年製ストラディヴァリウスとのことですが、千住真理子のストラディヴァリウスとは、はっきりヴァイオリンの音が違うということが分かり、ある意味、こちらの方が耳慣れたストラディヴァリウスという印象です。演奏は、若いだけにフレッシュではあるもののもう一步音楽の熟成感がほしいところで、ヒラリー・ハーンはゆったりとしたテンポでヴィヨームの澄み切った透明度の高い音が印象的でした。戸田弥生とエル・パシヤのデュオリサイタルでは、戸田弥生のバッハのシャコンヌの演奏がありました。シャコンヌは前橋汀子の演奏と CD も聴いており、千住真理子は CD を購入しました。さらに堀米ゆず子は無伴奏パルティータ 1 番の演奏を聴いていますし、シャコンヌは BS 録画があります。ヒラリー・ハーンはシャコンヌを聴いています。

前橋汀子の CD は、実際の生演奏の雰囲気をよく再現でき、いかにもガルネリ・デル・ジェスらしい、コクのある深い味わいが楽しめます。一方千住真理子の方はストラディヴァリウス・デュランティのすっきりと伸びのある音です。また、堀米ゆず子はガルネリ・デル・ジェスの彫の深い演奏が聴きどころです。ヒラリー・ハーンはイザイと同様、ヴィヨームの透明度の高い品位のある演奏でした。



これらに対して、戸田弥生のシャコンヌの生演奏はイザイと同様、飾り気のない直線的な表現で、こうやって聴き比べてみます、それぞれの演奏家の音楽への向き合い方や所有する楽器の特性を活かした演奏スタイルであることが分かります。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/03/1787a5673d9e265e524e4407f2aefdc9.pdf>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/03/8ad4d9f75b50729a9703b7f3f9e624c9.pdf>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?p=3543>

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?s=%E3%83%92%E3%83%A9%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%83%8F%E3%83%BC%E3%83%B3>